



Y. Katoz



Hamashima

鮫島輝彦

加藤芳朗, 長沢敬之助, 鮫島輝彦, 岡田博有先生をおくる

加藤芳朗教授, 長沢敬之助教授, 鮫島輝彦教授のお三人が1988年3月31日をもって停年退官されることになりました。また, 岡田博有教授は同年4月1日付けで九州大学に転任されることになりました。

加藤芳朗先生は1951年静岡大学農学部にて赴任されて以来37年間, 農林地質学講座を担当され, その間終始一貫して農林業の基礎となる土壌の研究に打ち込んで来られました。土壌をあらゆる角度から考察された多数のご研究は国内外に広く知られ, また, 先生のご薫陶を受けた門下生の数は数えきれない程, 現在各分野で活躍しております。先生はご退官後, 磐田市に定住されると伺っておりますが, 県地学会の会長として引き続き県下の地学界にご指導を賜りたいと念願しております。

長沢敬之助先生は1977年静岡大学理学部地球科学科地殻化学講座の初代の教授として名古屋大学より赴任され, 以来10年7ヶ月間本学の地殻化学の教育, 研究をリードし, その充実発展に尽力されました。先生のご活躍は金属鉱床学, 粘土鉱物学の分野において独創的な多くの業績をあげられ, 内外の学界に大きな影響を与えてきたばかりでなく, 多くの関連学会の評議員, 会長として指導的な役割を果たして来られました。また, 先生は行政面においても優れた一面を発揮され, 本学の評議員, 理学部長などの多数の要職を歴任され, 大学の発展に貢献されました。ご退官後は引き続き清水市にお住いで, この春新設になった常葉学園浜松大学の教授としてご活躍の予定と伺っております。

鮫島輝彦先生は1951年静岡大学文理学部に赴任され, 1965年学部改組により発足した教養部に率先して移られ, 1974年ニュージーランドに渡られるまでの約23年間, 研究と教育に渾身尽されました。先生のご研究は学術的評価の高い沸石の鉱物学から超塩基性岩に至る一連の研究ばかりでなく, 火山, 地熱, 温泉, 鉱物資源, 自然災害といった人類に直接関わりを持つ地学現象に広く目を向けられ, 実に精力的に調査, 研究され, 多くの業績を残されました。これらの幅広い視野に立った先生のご講義は, どれだけ多くの学生を魅了したか計り知れません。ある日突然ニュージーランドに移住された先生は, そこでも火山, 地熱, 鉱物学の研究に熱意を燃やし, 多くの研究成果をあげられました。1986年地球科学科地殻物理学講座を担当していただくため, 13年間のニュージーランドを後に再び古巣の理学部にもどっていただきました。ご退官までの短かい2ヶ年でしたが, 先生にはその深い学識と国際感覚豊かな経験をもって, 地球科学科の更なる発展のため尽力していただきました。ご退官後は再びお子様方の待つ第二のふる里オークランド市に帰られると伺いました。日本とニュージーランドを学術と文化で結ぶかけ橋をいつまでも続けて下さることを念願いたします。

岡田博有先生は1976年地球科学科の設立と共に海洋地質学講座の初代教授として赴任され, 12年間日本で唯一最初の講座の充実発展に努力されました。この間先生のご性格がにじみ出た明解なご講義と端正な研究指導は, その教えを受けた多くの門下生に生涯忘れ得ぬ感銘として残っております。この春からは母校の九州大学理学部地質学科にもどられ, 古巣において研究にも一層の研ぎがかかるものと思います。

静岡大学地学教室連合(理学部, 教育学部, 教養部, 農学部)のビッグ4教授がここで同時にご退官, 転任されるという大変な事態に直面し, 今更ながら残された15名のスタッフは狼狽しております。本学地学教室の研究, 教育活動を名実ともにリードして来られた先生方でしたから, 私共のこれからの活動に多くの不安を感じるのは当然のことです。しかし, 先生方が永年にわたって着々と築

いて下さいましたどっしりとした基礎の上に、先生方のお志を引き継いで、すでに後任として赴任した三人の新スタッフ共々、立派な地球科学を着実に構築していくべく努力する所存であります。当面は先生方の深い学識と豊かな経験に代えて、平均年齢にして7.8才若返ったエネルギーを投入して本学地学連合の発展に務めたいと考えております。

先生方の研究、教育に与えられました今日までのご業績を以下に記録し、その偉大なる寄与に心より感謝し、今後益々ご壮健で私共をご指導下さいますことをお願いいたしております。

ここにささやかではありますが一つの記念として、静岡大学地球科学研究報告の記念号を出版し、先生方に捧げます。

1988年4月1日

理学部地球科学教室
池谷仙之

加藤芳朗教授の履歴

かとうよしろう
加藤芳朗

大正13(1924)年10月16日生

出身地 静岡県磐田郡中泉町坂ノ上2496番地
本籍 同上
現住所 静岡県磐田市国府台53番地の4

学歴

昭和17(1942)年3月 静岡県立見付中学校卒業
昭和17(1942)年4月 静岡高等学校理科乙類入学
昭和19(1944)年9月 同上卒業
昭和19(1944)年10月 東京帝国大学理学部地質学科入学
昭和22(1947)年9月 同上卒業

職歴

昭和22(1947)年9月 静岡県立見付中学校教諭
昭和24(1949)年4月 静岡県立磐田第一高等学校教諭（翌年4月、名称変更で静岡県立磐田南高等学校教諭）
昭和26(1951)年4月 静岡大学農学部助手
昭和26(1951)年6月 静岡大学農学部講師
昭和31(1956)年7月 静岡大学農学部助教授
昭和47(1972)年6月 静岡大学農学部教授（大学院農学研究科兼任）
昭和63(1988)年3月 静岡大学農学部停年退官

非常勤講師

昭和24(1949)年 静岡農林専門学校
昭和25(1950)年 静岡農科大学
昭和41(1966)年～昭和43(1968)年 宮崎大学農学部
昭和45(1970)年 名古屋大学大学院農学研究科
昭和45(1970)年～昭和58(1983)年 静岡県林業講習所，同林業短大，同農林短大
昭和48(1973)年～昭和51(1976)年 東京教育大学農学部
昭和51(1976)年，昭和53(1978)年，昭和55(1980)年 岐阜大学大学院農学研究科
昭和58(1983)年 琉球大学農学部
昭和58(1983)年～現在 国立奈良文化財研究所
昭和61(1986)年 名古屋大学大学院農学研究科

昭和62(1987)年 都道府県土地分類調査現地検討会 (国土庁, 静岡県)

学 位

昭和38(1963)年3月 理学博士 東京教育大学
 論文名: "Mineralogical Study of Weathering Products of Granodiorite at Shinshiro City"

海外出張等

昭和36(1961)年5月 東京教育大学へ内地留学 (10ヶ月, 指導教官: 須藤俊男教授)
 昭和48(1973)年11, 12月 ニュージーランドへ研修旅行 (国際第四紀学連合大会へ出席)
 昭和49(1974)年8, 9月 ソビエト連邦へ研修旅行 (国際土壌学会へ出席)
 昭和52(1977)年8月 マレーシアへ出張 (国際土壌学会部会へ出席)
 昭和55(1980)年8月 韓国へ出張 (日本学術振興会国際協同研究)
 昭和55(1980)年11月 タイ国へ出張 (日本学術振興会国際協同研究)
 昭和56(1981)年8月 韓国へ出張 (日本学術振興会国際協同研究)
 昭和56(1981)年12月 タイ国へ出張 (日本学術振興会国際協同研究)

学界等における活動

昭和37(1962)年～昭和56(1981)年, 昭和61(1986)年～現在 ペドロジスト懇談会評議員
 昭和44(1969)年～昭和48(1973)年, 昭和51(1976)年～昭和54(1979)年, 昭和57(1982)年～昭和60
 (1985)年 日本粘土学会評議員
 昭和44(1969)年～昭和53(1978)年, 昭和55(1980)年～現在 日本第四紀学会評議員
 昭和47(1972)年～現在 日本学術会議第四紀研究連絡委員会委員
 昭和51(1976)年～現在 同上 古土壌国内小委員会委員長
 昭和54(1979)年, 昭和55(1980)年 土壌物理研究会評議員
 昭和56(1981)年, 昭和57(1982)年 日本土壌肥料学会評議員
 昭和57(1982)年～昭和60(1985)年 ペドロジスト懇談会会長
 昭和58(1983)年 遺跡保存方法調査研究委員会委員 (文化庁, 静岡県)
 昭和59(1984)年, 昭和60(1985)年 文部省学術審議会専門委員
 昭和59(1984)年～現在 静岡県埋蔵文化財調査研究所評議員
 昭和61(1986)年～現在 静岡県地学会会長
 昭和62(1987)年～現在 International Quaternary Association (INQUA), member of Commission on Paleopedology

業 績 目 録

著 書

土壌一次鉱物, 「日本の土壌型」, 154-179, 農文協 (分担執筆)(1964).
 鉱物分析, 「関東ローム」, 208-215, 築地書館 (分担執筆, 近藤精造と共著)(1965).

- 土壌, 『地球科学講座「第四紀」』, 167-205, 共立出版 (分担執筆) (1971).
- 土壌生成因子の変遷と古土壌, 「植物栄養・土壌・肥料大事典」, 252-258, 養賢堂 (分担執筆) (1976).
- 土壌, 「地形と土壌」, 78-138, 東海大出版会 (分担執筆, 細野 衛と共著) ()
- 土と地盤中の粘土鉱物, 「土質工学における化学の基礎と応用」, 15-24, 土質工学会 (分担執筆) (1978).
- 土壌生成因子, 母材, 「土壌調査法—野外研究と土壌図作製のための」, 70-91, 博友社 (分担執筆) (1978).
- 土地条件編, 「磐田の自然」, 7-86, 磐田市誌編纂委員会 (分担執筆) (1979).
- 火山灰土の生成メカニズム, 「火山灰土—生成・性質・分類」, 5-30, 博友社 (分担執筆) (1983).
- 土壌生成・分類・調査, 「新土壌学」, 131-158, 朝倉書店 (分担執筆) (1984).
- 土壌とその中の粘土鉱物, 「粘土ハンドブック, 第2版」, 167-178, 技報堂 (分担執筆) (1987).
- 古環境解明のために土壌学は何を寄与しうるか, 「土壌学と考古学」, 7-31, 博友社 (分担執筆) (1987).
- 丘陵・台地—堆積岩起源土壌, 中～塩基性火成岩起源土壌, 土壌と時間, 「農業技術大系, 土壌施肥編, 第3巻土壌の性質と活用」, 91-101, 農文協 (分担執筆) (1987).

他 9編

原著論文

- 加藤芳朗 (1954), 磐田原北方地域の地形について. 静大教育浜松分校年報, No. 7, 89-97.
- 加藤芳朗・松井 健 (1954), 静岡県新所原附近の洪積土壌の研究 (第1報) 土壌断面形態と地形発達史との関係. 静大農研報, No. 4, 107-110.
- 松井 健・加藤芳朗 (1955), 静岡県新所原附近の洪積土壌の研究 (第2報) 母材の風化過程. 資源研彙報, No. 39, 1-11.
- 松井 健・加藤芳朗 (1957), 静岡県新所原附近の洪積土壌の研究 (第3報) 一般理化学性・鉱物組成について. 静大農研報, No. 7, 77-88.
- 松井 健・加藤芳朗・大竹一彦 (1958), 大井川右岸用水地区の土壌調査. 土肥誌, **29**, 208-212.
- 加藤芳朗 (1960), 「黒ボク」土壌中の植物起源粒子について (予報). 土肥誌, **30**, 549-552.
- 加藤芳朗 (1960), 東海地方東部の「黒ボク」土壌の細砂鉱物組成. 土肥誌, **31**, 25-28.
- 加藤芳朗・松井 健 (1960), 富士西麓火山性水田土壌の調査と分類. 土肥誌, **31**, 387-390.
- 加藤芳朗・近藤鳴雄 (1960), 富士西麓の「マサ」(盤層) について. 土肥誌, **31**, 399-402.
- 加藤芳朗 (1961), 静岡市近郊日本平「黒ボク」土壌の粘土鉱物. 土肥誌, **32**, 328-332.
- 松井 健・加藤芳朗・黒部 隆他2名 (1961), 沖積平野の水田土壌の分類にかんする一試案—静岡市周辺の例—. ペドロジスト, **5**, 80-91.
- 加藤芳朗 (1961, 1962), 静岡県三方原および東縁段丘群の土壌 (第1～3報). 土肥誌, **32**, 585-588 ; **33**, 149-152, 247-249.
- 松井 健・加藤芳朗 (1962), 日本における赤色土壌の生成時代・生成環境にかんする一考察. 第四紀研究, **2**, 161-179.
- 加藤芳朗 (1962), 関東ローム層の細砂鉱物組成. 地球科学, No. 62, 11-20.
- 加藤芳朗 (1962), 愛知県新城「黒ボク」土壌の粘土鉱物. 土肥誌, **33**, 513-516.
- 加藤芳朗 (1962), 静岡県焼津市高草山「黒ボク」土壌の粘土鉱物. 土肥誌, **33**, 517-520.
- 加藤芳朗 (1963), 静岡県磐田原「黒ボク」土壌の粘土鉱物. 「粘土科学の進歩, 4集」, 311-325, 技報堂.
- KATO, Y. (1964, 1965), Mineralogical study of weathering products of granodiorite at Shinshiro City (I～VI). *Soil Sci. Plant Nutr.*, **10**, 258-263, 264-269; **11**, 30-40, 62-73, 114-122, 123-128.

- 松井 健・加藤芳朗 (1965), 中国・四国地方およびその周辺における赤色土の産状と生成時期. 資源研彙報, No. 64, 31-48.
- 加藤芳朗 (1965), 花崗岩の風化(特に一次鉱物の風化過程). 「粘土科学の進歩, 5集」, 125-136, 技報堂.
- 加藤芳朗 (1967), 静岡県由比町における“Grumusol”類似の土壤. ペドロジスト, **11**, 81-87.
- 愛鷹ローム団体研究グループ・加藤芳朗 (1969), 愛鷹山麓のローム層—東名高速道路工事現場を中心として—. 第四紀研究, **8**, 10-21.
- 愛鷹ローム団体研究グループ・加藤芳朗 (1970), 愛鷹ローム上部ローム層中の埋没腐植層の ^{14}C 年代. 地球科学, **24-2**, 73-75.
- 加藤芳朗・中西寿彦・中田正志 (1970), 由比町の小河内泥岩に由来する土壤のモンモリロナイト鉱物. 静大地学研報, No. 2, 21-29.
- 加藤芳朗 (1970), 東海地方の「黒ボク」土壤の一般理化学性—火山灰土壤との対比を中心として—. 土肥誌, **41**, 173-177.
- 加藤芳朗 (1970), 東海地方の「黒ボク」土壤の H_2O_2 —脱鉄—タム逐次処理によるリン酸吸収係数の変化. 土肥誌, **41**, 218-224.
- 加藤芳朗 (1970), 腐植質土壤の非晶質成分の形態に関する—モデル(予報). ペドロジスト, **14**, 16-21.
- 加藤芳朗 (1970), 東海地方の「黒ボク」土壤の塩基吸着基特性と非晶質成分について (予報). 土肥誌, **41**, 257-261.
- 加藤芳朗 (1970), 東海地方西部の「黒ボク」土壤の結晶性粘土鉱物組成. 土肥誌, **41**, 301-306.
- 松井 健・加藤芳朗・古川博恭他 2 名 (1971), 知多半島南部における地質・地形・土壤の対応関係. ペドロジスト, **15**, 87-97.
- 加藤芳朗 (1972), 日本における陸成腐植質土壤の非晶質成分の形態モデル. ペドロジスト, **16**, 92-106.
- 加藤芳朗 (1973), 愛鷹ローム上部ローム層の埋没腐植層中の非晶質成分. 第四紀研究, **12**, 11-18.
- 加藤芳朗 (1973), 東海地方の「黒ボク」土壤の吸着基特性(続). 土肥誌, **44**, 403-407.
- 佐瀬 隆・加藤芳朗 (1976), 現世ならびに埋没火山灰土腐植層中の植物起源粒子—とくに植物珪酸体—に関する研究(第 I, II 報). 第四紀研究, **15**, 21-33, 66-74.
- 加藤芳朗 (1977), 日本における陸成腐植質土壤の分類学的試論. ペドロジスト, **21**, 42-57.
- KATO, Y. (1980), A dark montmorillonitic, Vertisol-like soil from central Japan. “Proc. CLAMATROPS, 1977”, 109-116, Malaysian Soc. Soil Sci.
- 加藤芳朗 (1980), テフラと斜交する黒土層. 軽石学雑誌, No. 6, 87-89.
- 加藤芳朗・宇津川徹・鈴木創三他 4 名 (1983), 東遠州灘海岸砂地地帯における耕地土壤の断面形態. 「火山灰と土壤—黒部 隆教授退官記念論文集—」, 149-155, 博友社.
- 加藤芳朗・宇津川徹 (1983), 小笠原諸島の土壤—とくにその生成分類について—. ペドロジスト, **27**, 114-124.
- 加藤芳朗 (1984), 水音を聴いて流れを知る—溪流の面的流量調査—. 環境情報科学, **13**(4), 63-67.
- 加藤芳朗 (1985), 山間小溪流での表層地質調査の 1 例. 静大農研報, No. 34, 47-57.
- 佐瀬 隆・加藤芳朗・牧野誠一 (1985), 富士山麓および天城山麓の火山灰土壤の植物珪酸体分析. ペドロジスト, **29**, 44-59.
- YOSHINAGA, N., KATO, Y., NAKAI, S. *et al.* (1986), Clay mineralogy of red- and yellow-colored soils from Korea. *Soil Sci. Plant Nutr.*, **32**, 113-133.
- 加藤芳朗・佐瀬 隆・堺井茂雄・金沢信夫 (1986), 累積火山灰断面腐植層中の植物珪酸体による年代

推定法(I, II). 第四紀研究, **25**, 99-104, 105-111.

他 16編

総 説

- 加藤芳朗 (1959), 偏光顕微鏡による土壤細砂粒子の見わけ方. ペドロジスト, **3**, 59-82.
- 加藤芳朗 (1964), 腐植にとむ土壤(「黒ボク」土壤)の生成に関する問題点. 第四紀研究, **3**, 212-222.
- 加藤芳朗 (1965), 地学と土壤(その1, その2). 静岡地学, No. 2, 7-12; No. 3, 14-20.
- 加藤芳朗 (1965), 火山灰土壤の母材に関する問題. ペドロジスト, **9**, 13-19.
- 加藤芳朗 (1967), 土壤と関連した表層地質の問題. 「柴田秀賢教授退官記念論文集」, 313-318.
- 加藤芳朗・生沼 郁・倉林三郎 (1967), 地質学における粘土科学の進歩. 「日本の地質学」, 327-348, 日本地質学会.
- 加藤芳朗 (1974), 火山灰土壤中の非晶質成分. 風化研究会会誌, No. 1, 14-16.
- 加藤芳朗・近堂祐弘・永塚鎮男 (1977), 古土壤. 「日本の第四紀研究, その発展と現状」, 189-206, 東大出版会.
- 加藤芳朗 (1977), 日本の土壤分類カテゴリーの検討. ペドロジスト, **21**, 2-18.
- 加藤芳朗 (1977), 植物珪酸体-土の中の化石-. 静岡地学, No. 36, 4-16.
- 加藤芳朗・橋本与良 (1978), 日本の土壤-その生成学的側面-. 科学, **48**, 286-295.
- 加藤芳朗 (1978), 有機質土(クロボク土壤)の生成と分類. 農業土木誌, **46**, 869-876.
- KATO, Y. and MATSUI, T. (1979), Some applications of paleopedology in Japan. *Geoderma*, **22**, 45-60.
- 加藤芳朗 (1979), 土壤生成・分類における母材の意義. ペドロジスト, **23**, 58-65.
- MACHIDA, H., KATO, Y., KONDO, Y. and NAGATSUKA, S. (1981), Recent progress of Quaternary research in Japan: Tephra and paleosol studies. "Recent Progress of Natural Science in Japan", **6**, 212-223, Science Council of Japan.
- 加藤芳朗 (1981), 静岡県の土壤. 中部土壤肥料研究, No. 53, 15-35, 中部土壤肥料研究会.
- 加藤芳朗 (1983), 中部地方の火山灰起源土壤. 「火山灰と土壤-黒部 隆教授退官記念論文集-」, 253-258, 博友社.
- 加藤芳朗 (1984), 黒ボク土壤および類縁土壤. ペドロジスト, **28**, 164-175.
- 加藤芳朗 (1985), 土地改変と土壤. 第四紀研究, **24**, 197-205.
- 加藤芳朗 (1986), 熱帯から暖温帯までの, 主として湿潤アジアの赤黄色の土壤. ペドロジスト, **30**, 23-35.
- 加藤芳朗 (1987), 土壤研究の問題点. 第四紀研究, **26**, 265-269.

他 8編

調査報告

- 加藤芳朗 (1957), 蜷塚遺跡付近の地形地質. 「蜷塚遺跡, その1」, 72-89, 浜松市.
- 望月勝海・鮫島輝彦・加藤芳朗 (1959), 大沢氾濫原調査報告. 「富士山大沢崩対策1」, 51-69.
- 加藤芳朗 (1964), 土壤(付土壤図). 「浜松市地質調査報告書」, 259-294, 浜松市.
- 加藤芳朗・広川 治 (1965), 土地分類基本調査, 5万分の1表層地質図「磐田・掛塚」, 同説明書, 22p., 経済企画庁.
- 近藤鳴雄・松井 健・加藤芳朗・黒部 隆・矢野義治 (1965), 静岡県基本土壤図(10万分の1, 2葉)

及び説明書, 65p. 静岡県.

- 加藤芳朗 (1966), 地形, 地質, 土壌(付地質図, 土壌図). 「南アルプス山麓県立自然公園候補地学術調査報告」, 1-20, 静岡県.
- 加藤芳朗 (1968), 地形・地質(付地質図). 「榛南県立自然公園候補地学術調査報告書」, 1-42, 静岡県.
- 県富美夫・近藤鳴雄・加藤芳朗他 3 名 (1971), 縮尺20万分の1, 土地分類図(土壌図)「静岡県」. 経済企画庁.
- 桐谷文雄・加藤芳朗他 7 名 (1971), 縮尺20万分の1, 土地分類図(表層地質図)「静岡県」. 経済企画庁.
- 加藤芳朗 (1972), 中川根演習林の地質(概報)(付地質図). 静大農演習林報告, No. 1, 1-2.
- 加藤芳朗 (1972), 土壌－表層地質地域区分説明書. 「昭和44・45年度国営農地開発事業横田・益田地区表層地質調査報告書」, 21-58, 中国・四国農政局.
- 加藤芳朗 (1972), 地形・地質. 「富士市浮島ヶ原地区, 土地利用基礎調査報告書」, 2-9, 富士市.
- 近藤鳴雄・県富美夫・加藤芳朗・鈴木 正・黒部 隆 (1972), 土地分類基本調査, 5 万分の1「浜松」土壌図, 同説明書. 静岡県. (他に同類の調査報告13編)
- 加藤芳朗 (1975), 焼土中の植物珪酸体から草本植生の推定. 「元野遺跡発掘調査報告書」, 48-49, 沼津市教育委員会.
- 加藤芳朗 (1977), 伊場遺跡をめぐる自然環境の地学的検討. 「伊場遺跡発掘調査報告書, 第2冊, 伊場遺跡遺構編」, 150-155, 浜松市教育委員会.
- 加藤芳朗 (1979), 地質(付地質図). 「太田川流域管理計画調査報告書」, 65-79, 林野庁.
- 加藤芳朗 (1979), 砂試料の粒径組成の検討. 「国鉄浜松工場内遺跡発掘調査概報」, 27-31, 浜松市教育委員会.
- 加藤芳朗 (1980), 調査地域の地学的特性. 「太田川流域管理計画調査報告書」, 3-8, 林野庁.
- 加藤芳朗 (1980), 開発可能性の地質因子からの評価. 「太田川流域管理計画調査報告書」, 140-144, 林野庁.
- 加藤芳朗 (1980), 寺谷遺跡をめぐる地形・地質・測定年代. 「寺谷遺跡発掘調査報告書, 本編」, 341-349, 磐田市教育委員会.
- 加藤芳朗 (1981), 流域内の自然立地条件と解析－表層地質. 「重要水源山地整備治山調査報告書(静岡県周智郡森町三倉地獄沢地内)」, 20-24, 水利科学研究所.
- 加藤芳朗・宇津川 徹 (1981), 父島の土壌. 「小笠原諸島自然環境現況調査報告書(2)」, 133-142, 東京都.
- 加藤芳朗 (1981), 大畑遺跡周辺の地学的背景と遺跡立地. 「袋井市大畑遺跡, 1951, 1977, 1978, 1980年度の発掘調査」, 8-15, 袋井市教育委員会.
- 加藤芳朗 (1983), 有東遺跡をめぐる地形・地質的背景. 「有東遺跡 I」, 48-56, 静岡県教育委員会.
- 加藤芳朗 (1983), 表層地質と表流水の水理. 「重要水源山地整備治山調査報告書(静岡県周智郡森町太田川流域)」, 10-22, 水利科学研究所.
- 加藤芳朗 (1985), 坂尻遺跡をめぐる地形・地質学的背景. 「坂尻遺跡－自然科学編－」, 1-12, 袋井市教育委員会.
- 加藤芳朗 (1985), 清水市下野遺跡(B地区)の遺物包含層をめぐる地質学的検討. 「下野遺跡」, 152-156, 清水市教育委員会.
- 加藤芳朗 (1985), 土橋遺跡をめぐる地形・地質学的背景. 「土橋遺跡」, 10-25, 袋井市教育委員会.
- 加藤芳朗 (1985), 火山ガラスの探索. 「広野遺跡」, 19-28, 平安博物館.

- 加藤芳朗 (1986), 上阿多古演習林の地質(概報)(付地質図). 静大農演習林報告, No. 10, 99-102.
- 加藤芳朗 (1986), 簡便法によるモデル小流域における流量分布調査. 「昭和60年度特別重要水源山地整備治山調査報告書(山梨県甲府市荒川流域)」, 59-62, 水利科学研究所.
- 加藤芳朗 (1986), 簡便法によるモデル小流域における流量分布調査(続). 「昭和61年度特別重要水源山地整備治山調査報告書(山梨県甲府市荒川流域)」, 85-91, 水利科学研究所.
- 加藤芳朗 (1987), 駿府城三の丸遺跡における脈状砂について. 「駿府城三の丸遺跡」, 59-64, 静岡県教育委員会.
- 加藤芳朗 (1987), 焼津市小川地区遺跡立地の地形・地質・土壌学的検討. 「道場田・小川城遺跡III, 宮之腰遺跡II, 道下遺跡」, 127-140, 焼津市教育委員会.
- 加藤芳朗 (1987), 清水市押切石川遺跡の土層の地質学的検討(続). 「石川遺跡」, 18-22, 清水市教育委員会.

他22編

見学旅行案内

- 加藤芳朗 (1955), 三方原台地の地形地質について. 普及だより, 7(11), 1-4, 静岡県農産課.
- 加藤芳朗 (1958), 日本平付近の地形地質概観. 普及だより, 10(11), 1-4, 静岡県農産課.
- 加藤芳朗 (1961), 富士山麓の地形・地質概観. 「1961年度野外見学旅行, 見学のしおり」, 3-18, ペドロジスト懇談会.
- 加藤芳朗 (1963), 浜名湖西岸の地形地質概観; 新所原ふきんの土壌. 「1963年度愛知・静岡両県下見学旅行, 見学のしおり」, 9-10, 21-27, ペドロジスト懇談会.
- 加藤芳朗 (1965), 「静岡県西端部および愛知県鳳来寺山一帯の地質」. 静岡県地学会資料, 2, 16p.
- 加藤芳朗 (1966), 「天竜川流域の地学案内」. 静岡県地学会資料, 8, 21p.
- 加藤芳朗 (1967), 静岡ふきんの地形・地質概観. 「1967年度第14回野外見学旅行案内」, 1-10, ペドロジスト懇談会.
- 加藤芳朗 (1968), 「静岡県北西端の中央構造帯周辺の地質」. 静岡県地学会資料, 15, 16p.
- KATO, Y. (1980), Pedological aspect on soils derived from Fuji tephras. "Roadlog for Excursion DT-1, Fuji, Hakone Volcanos and Oiso Coast, XXIV IGC, Tokyo", 22-27.
- 加藤芳朗 (1987), 静岡県の土壌と土地利用. 昭和62年度都道府県土地分類調査現地検討会資料, 76-92, 国土庁.

他4編

その他

辞典の項目説明, 啓蒙普及, 巻頭言, 短報など

66編

長沢敬之助教授の履歴

なが さわ けい の すけ
長 澤 敬 之 助

大正13(1924)年10月26日生

出身地 東京都北区（旧東京府北豊島郡滝野川町）田端126番地
本 籍 愛知県名古屋市昭和区山手通2丁目14番地
現住所 静岡県清水市北矢部915番地9

学 歴

昭和16(1941)年3月 武蔵高等学校尋常科修了
昭和16(1941)年4月 同上高等科理科乙類進学
昭和18(1943)年9月 同上卒業
昭和18(1943)年10月 東京帝国大学理学部地質学科入学
昭和23(1948)年3月 東京大学理学部地質学科卒業
昭和23(1948)年4月～昭和26(1951)年3月 同上大学院在籍

職 歴

昭和26(1951)年5月 文部教官，名古屋大学講師(理学部)
昭和29(1954)年2月 名古屋大学助教授(理学部)
昭和52(1977)年9月 静岡大学教授(理学部)
昭和58(1983)年4月 静岡大学評議員(併任)
昭和59(1984)年4月 静岡大学理学部長(併任)
昭和63(1988)年3月 静岡大学停年退官

非常勤講師

昭和26(1951)年度 名古屋大学瑞穂分校
昭和26(1951)年度～昭和44(1969)年度 名古屋大学工学部
昭和36(1961)年度 静岡大学文理学部
昭和42(1967)年度，昭和44(1969)年度，昭和46(1971)年度，昭和48(1973)年度，昭和50(1975)年度
岐阜大学教育学部
昭和42(1967)年度，昭和43(1968)年度，昭和46(1971)年度 東北大学理学部
昭和47(1972)年度 山梨大学工学部
昭和47(1972)年度～昭和51(1976)年度 名古屋大学農学部
昭和47(1972)年度，昭和49(1974)年度 静岡大学理学部
昭和48(1973)年度 東京大学理学部
昭和53(1978)年度，昭和55(1980)年度，昭和57(1982)年度 名古屋大学理学部

昭和56(1981)年度 熊本大学理学部
 昭和57(1982)年度 信州大学理学部
 昭和58(1983)年度 広島大学理学部

学 位

昭和36(1961)年9月 理学博士 名古屋大学
 論文名：「新潟県三川鉱山の鉱化作用の研究」

表 彰

昭和39(1964)年1月 日本鉱山地質学会論文賞受賞

海外出張等

昭和40(1965)年8月～9月 アメリカ合衆国，連合王国，フランスへ研修旅行（北米粘土会議および第1回国際熱分析会議出席）
 昭和45(1970)年2月～昭和46(1971)年2月 連合王国，フランス，西ドイツへ出張(Rothamsted Experimental Stationにおいて研究)
 昭和49(1974)年7月～8月 フィリピン，パプアニューギニア，英領ソロモン，オーストラリアへ研修旅行(鉱床見学など)
 昭和50(1975)年7月～8月 アメリカ合衆国，メキシコへ研修旅行（第5回国際粘土会議出席）
 昭和53(1978)年7月 連合王国，西ドイツ，オーストリアへ研修旅行（第6回国際粘土会議およびIGCPカオリンシンポジウム出席）
 昭和56(1981)年9月 イタリアへ研修旅行（第7回国際粘土会議出席）
 昭和60(1985)年7月～8月 アメリカ合衆国へ研修旅行（第8回国際粘土会議出席）

学界等における活動

昭和41(1966)年6月～昭和43(1968)年6月 日本学術会議地質学研究連絡委員会委員
 昭和41(1966)年11月 国際粘土会議組織委員会委員
 昭和44(1969)年6月～昭和48(1973)年3月 金属鉱物探鉱促進事業団長棟地域広域調査班長
 昭和44(1969)年3月～昭和45(1970)年12月 学術審議会専門委員
 昭和52(1977)年8月～昭和59(1984)年7月 金属鉱業事業団広域調査および精密調査(長棟地域，飛驒地域，伊豆地域)検討員
 昭和56(1981)年6月～昭和60(1985)年7月 日本学術会議地質学研究連絡委員会委員
 昭和56(1981)年9月～現在 AIPEA(国際粘土研究連合)評議員
 昭和57(1982)年11月～昭和58(1983)年10月 日本粘土学会副会長
 昭和59(1984)年5月～昭和61(1986)年5月 日本鉱物学会会長
 昭和60(1985)年10月～昭和61(1986)年10月 日本粘土学会会長

